

未来のモノのデザイン

ドナルド・A・ノーマン著

カーナビは、目的地まで音声と地図によって誘導してくれる。途中で渋滞が生ずると、新しいルートを表示する。けれども、渋滞がどの程度なのは判断しない。新しいルートを選択していくと、結局、ひどく長距離になってしまつたりする。高速道路でクルーズコントロールを使っていて、スイッチを切らぬまま一般道に出た瞬間、高速道路の速度制限いっぱいまで加速し、あやうく事故を起こしそうになる。新しいソフトをダウンロードして、パソコンにインストールはじめて途中でトラブルが生じ、インストールを中断しようとしても、どのようにすればいいのかわからない。インストールの自動作業はどんどんすすんでしまう。

家電から住宅そしてクルマにいたるまでコンピュータで制御するようになって久しい。コンピュータによる装置の自動制御（ロボッ

ト）化は押しとどめようもなく進んでいる。しかし、自動制御装置は、わたしたちの意志に反して、勝手に判断し、ことをすすめていく。これがもし事故につながったとしたら、誰の責任なのか。もちろん人間の責任である。

こうした今日の状況の中では、装置の論理を正しく認識し、また何が問題であり、どのようなことがこれからテーマとなるのかを著者は提示する。

わたしたちは、さまざまなかたちで反応し判断するが、自動制御装置を組み込んだ道具は、センサーで検知できるものしか測定しない。機械は、人間とは異なる目標を持つてているのだということを認識する必要がある。自動制御装置に欠落しているものは、コミュニケーション能力である。そして、わたしたちは暗黙の理解、つまりアノオーディエンスと呼ぶ「コミュニケーション能力を持つてている。歩いている人の動きから、どちらに進むかを判断する。さらには、グングンと鍋の煮える音で料理の状態を判断する。

人間の持つこうした能力を前提にして、これから道具や装置はどうあるべきか。これこそ今後のデザインの課題である。その課題のためのルールを本書は明確に提示している。



人間の能力前提の道具とは？

（安村通晃ほか訳、新曜社・
二、六〇〇円）

▼著者は米国の認知科学者。
邦訳書に『誰のためのデザイン
ン？』など。